

FUJIEDA ROTARY CLUB WEEKLY BULLETIN

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040

2003-2004年度RIテーマ

◆Lend a Hand◆

◆手を貸そう◆

[ジヨナサンB.マジアベ]



会長：渡辺篤司 副会長：柳原寿男
幹事：小宮弘一郎 副幹事：宮川邦光

第1573回

<ソング> われら日本のロータリアン
<ソングリーダー> 後藤 功君



紅シジミ

[写真提供：櫻井 龍太君]

会長報告

渡辺 篤司君

4月21日は新茶の初取引です。当クラブにもお茶屋さんがあります。新茶が始まると毎朝午前4時前から仕事を開始するようで、何といても年間を通して新茶のこの時期が勝負のようです。

今日の卓話は当クラブ員の石垣君が立教大学OBの先輩、後輩という事で宗野徳太郎様をお願いしてくれました。宗野様は静岡高校時代甲子園に3回出場し、その後立教大学野球部に入部。当時全国から1年生60名が入部したようでしたが、4年生まで残る人は6、7人。いかに大学のスポーツが大変かという事です。

野球部時代には2年後輩の長嶋茂雄の教育係を2年間担当したとの事でした。何しろ長嶋様の野球の勘は他の部員と違った動物的な勘があったようです。当時立大で通算8本塁打の東京六大学記録を樹立し、58年に巨人に入団、現役中に数々の優秀な成績をおさめたスーパースターでした。今年アテネ五輪を目指す日本代表編成委員会強化本部長に就任されました。しかしこの前、突然の病に襲われ、現在はリハビリで療養中です。1日も早い回復を願っています。宗野様の卓話は30分ではとても聞ききれません。本当に残念です。長くSBS静岡放送で高校野球の解説者として大活躍中とのことで、これからも健康に留意されて頑張ってください。

本日は本当にありがとうございました。

幹事報告

小宮 弘一郎君

●国際大会開催の願いが届いています。

- 藤枝市「花と緑のまちづくりキャンペーン」への協力の案内が届いています。
- 藤枝市国際友好協会役員会の報告が届いています。

出席報告

宮川 邦光君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
32 / 42 76.19%	31 / 42 73.81%

(1)欠席者(事前連絡とメーキャップをどうぞ)

岩崎君 酒向君 松寄君 水野君

望月晃君 浅川君 板倉君 鈴木舜君

仲田晃君 望月志君

(2)メーキャップ者

櫻井 龍太君(藤枝南) 岩崎 四郎君(静岡日本平)

スマイルBOX

宮川 邦光君

●夫人誕生祝ありがとうございます。

松葉 隆夫君

スマイル累計額 949,500円

委員会報告

インターアクト委員会

次年度委員長 石垣 善康君

指導者講習会 6月12日(土)

10:00~15:00

実行委員会

実行委員長 柳原寿男(次年度会長)

副委員長 宮川邦光(次年度幹事)

副委員長 青島克郎(次年度地区

インターアクト副委員長)

運営担当リーダー 委員

青島 彰（次年度社会奉仕委員）
石垣 善康（次年度インターアクト委員長）
池ノ谷敏正（今年度社会奉仕委員長）
岩崎 四郎（次年度会場設営副委員長）
片岡 利碩（元インターアクト委員長）
後藤 功（次年度社会奉仕委員長）
仲田 廣志（元インターアクト委員長）
増田 国衛（次年度新世代委員長）
松寄 周一（今年度新世代委員長）

4月7日卓話の補足 小西啓一君

当日の卓話の資料を整えるため事務局より第3代目の交換学生西野さつきさんに、派遣当時の事実関係を問い合わせさせていただいた処、卓話終了以後別紙の感想文をいただきました。前回の卓話の補足となるかと思しますので、クラブ会報委員会をお願いして掲載していただくことになりました。

【1997年～1998年青少年交換学生
西野さつき様】

ブラジル留学の記録

< 期 間 > 平成9年8月～平成10年7月
< 滞在地 > Espirit Santo 州 Vitoria 市
< 学校名 > Nacional 高校
< 主な活動 >

ロータリアンである2つの家庭に一年間に亘りホームステイさせて頂きました。現地の学生に混ざり Nacional 高校に通い勉学を共にさせて頂きました。月に一度ロータリーの地区集会に参加し毎日の生活の報告を致しました。ブラジルロータリー企画の留学生全体に及ぶ旅行に参加させて頂きました。2つの旅行に参加させて頂きました。1つ目はアルゼンチン・パラグアイ・ブラジルの国境となるイグアスの滝へ約二週間に亘り旅行を致しました。2つ目はアマゾン近郊の森林地帯や海岸沿いを北上し、各州を転々と滞在し約40日間に亘り旅行を致しました。

< 感想 >

一年間ブラジルという国に滞在し、言葉だけでなく他にも様々な大切なことを学びました。日本

では感じるこのできない国の経済状態の危機、貧富の差、国教の信仰心の深さなど日本との違いは様々でした。見るもの全てに感動し毎日が貴重な時間となり、一瞬一瞬が忘れるこのできない大切な思い出となりました。よく食べ、よく話し、よく笑い、よく踊って毎日を陽気に過ごすブラジル人に“人生は楽しむべき”だと言うことを実践で教わりました。

スラム街を訪れ肌の色が黒く破れた服を着て、裸足で走り回っている子供たちを生まれて初めて目の前にした時はやはり戸惑いを感じました。日本で何不自由なく暮らして来た私には目を背けたくなるような現実でした。十分な教育を受けられず十分な食べ物も食べられない子供たちは、不平不満も言わずいつも満面の笑みで生活をしていました。それを見た時、本当の幸せとは何かを考えさせられました。物が豊かでお金がある日本人は本当に幸せなのか、仕事や時間に追われ家族や友人への愛情をどこかに忘れてきてしまっている日本人は本当に幸せなのか考えさせられました。物質的幸せより精神的幸せが大切であるということを知りました。

現地のロータリアン、ホストファミリー、友人など多くの人々が家族でも親戚でもない私に驚くほどの愛情を与えてくれました。人間として大切なことは何かということを知ったような気がします。

私の人生においてこの一年間のブラジルでの生活がすごく貴重で忘れるこのできない大切なものとなりました。こうして私を送ってくださったロータリーの皆様方には感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

外部卓話

宗野 徳太郎様

【略歴】

静岡高校、立教大学にて野球部に所属。現在、社長業の傍ら、SBS 静岡放送にて高



校野球の解説者として活躍中。

立教大学野球部時代には、2級後輩の長嶋茂雄の教育指導係を担当、その後の長嶋茂雄の活躍の礎を築いた。

< 野球雑感 >

野球の歴史と今日の野球界の発展に貢献した人々がそれぞれの時代を支えた。

明治5年

アメリカ人教師ホーレンウイルソン(開成学院、東京大学)が生徒に野球を教えた。

大正3年

早慶明の3大学によって初めてリーグ戦が行われた。

大正4年

全国中学校優勝野球大会(現在の夏の甲子園大会)が朝日新聞社の主催で大阪豊中球場で開始。

大正13年

全国選抜中学校野球大会(現在の春の甲子園大会)が愛知県の山本球場で開始。この年阪神電鉄が5万人収容の甲子園球場を完成。

大正14年

東大の加入で東京6大学野球リーグが発足。

大正15年

神宮球場が完成する。

昭和2年

東京日日新聞(現在の毎日新聞社)によって社会人野球の都市対抗野球大会が始まる。橋戸信(早大OB)の提案による。

夏の甲子園大会がはじめてラジオで実況放送される。

昭和4年

早慶戦の天覧試合が行われる。
東京6大学リーグの全盛時代が始まる。

昭和6年

ゲーリック、オドールらアメリカ大リーグオールスターチームが来日。

昭和8年

中京商業が夏の甲子園で3連覇

昭和9年

ペーブルスらアメリカ大リーグ選抜チームが来日。

昭和16年

戦争による甲子園大会中止。

昭和18年

学生野球はすべて中止、野球用語は日本語に。

昭和19年

プロ野球はすべて中止。

昭和20年

11月17日神宮球場で全早大 - 全慶大戦を挙行

昭和21年

大学野球の復活(東西で春シーズンが再開)

昭和22年

甲子園で選抜大会が復活。

昭和23年

横浜ゲーリック球場(現横浜スタジアム)でプロ野球初ナイターが行われる。

昭和25年

プロ野球はセントラルリーグ、パシフィックリーグの2リーグ制となる。

昭和30年

アジア野球選手権大会が行われ東京6大学選抜が出場し初優勝。

昭和33年

長嶋茂雄が巨人軍に入団。

東京6大学のホームラン記録(通産8HR)をひっさげての鳴物入りの入団だった。

国鉄のエース金田投手から4連続三振のデビューは長嶋を強烈に印象づけた。

高校野球が第40回の記念大会で徳島商業のエース坂東英二が6試合62イニングで83奪三振の記録をつくり話題となる。

昭和34年

長嶋がサヨナラホームランを放つ。

長嶋の人気はこの試合で全国の野球ファンを引きつけることになった。

王貞治(早稲田実業)が巨人に入団。

昭和35年

一本足打法王貞治が誕生。

昭和37年

王貞治が初のホームラン王となり、ON時代がスタート。

昭和44年

第51回夏の甲子園 松山商業 - 三沢高の決勝戦は延長18回引分け再試合となり、4 - 2で松山商

三沢のエース太田幸司の力投が全国の高校野球ファンに感動を与えた。

巨人の金田正一投手が400勝を達成し引退。

昭和48年

第55回夏の甲子園 作新学院のエース江川投手が注目される。

江川は公式戦3試合連続ノーヒットノーランというとてつもない記録をひっさげて甲子園に乗り込んだ。結果は2回戦銚子商と雨中の延長12回満塁押出しで破れ江川の夏は終わる。

昭和49年

長嶋茂雄ミスタープロ野球が現役引退。

「巨人軍は永久に不滅です」の名言を残す。

昭和52年

9月3日の王貞治が756号本塁打を打つ。ハンクアーロンの記録を破る。

昭和62年

6月13日広島カープの衣笠祥雄がルーゲリックの記録を破る。2,131試合連続出場を達成。

平成6年

イチロー210安打 藤村富美男の191安打を更新

平成7年

野茂投手が大リーグドジャースへ。ナ・リーグ新人王に。

平成13年

イチロー大リーグマリナーズで新人王、最優秀選手に

ミスタープロ野球 長嶋茂雄引退。

平成14年7月13日

プロ野球オールスターゲーム第2戦が四国松山のポッチャン球場で行われた。正岡子規死去100年を記念したもので、現在野球用語として使われているのは正岡子規が翻訳したものである。

彼は左利きのキャッチャーだった。野球殿堂入りした。

今夏の高校野球大会に参加した高校は4163校、静岡県は114校でいずれも昨年を上回った。

野球少年の底辺が減少しているといわれながらこの様な現実を見る時、日本の野球界は決して悲観するものではない。

終わりにアテネ五輪を目指す日本代表編成委員会の強化本部長、要するにオールジャパンの監督に選任された長嶋茂雄が甲子園で高校野球を始めて観戦し8月22日の朝日新聞に彼の感想が掲載された。

「出られなかった甲子園。プロ野球とは吹く風が違うんですね。」4162の敗戦に大きな意義がある。」

“彼の野球人生はすべて三振にはじまった。”

「老いても青春 と言いますが10代だけが青春じゃない、我々のように60歳を超えても高校野球に触れると青春を取り戻すことができる。」

そして最後に一言、とにかく今日はリフレッシュしたなあ、49年ぶりに悔しさがよみがえったけれどね。

ミスタープロ野球、長嶋茂雄ならではのすばらしい記事でした。

(担当/平井)